



新たな知の
地平を拓く

京都大学 附置研究所・センター
22 Research Institutes and Centers
Kyoto University

京都大学附置研究所・センターシンポジウム
京都大学広島講演会



日時 2015.3/14 **土**

10:00 ▶ 17:20

場所 広島国際会議場

国際会議ホール「ヒマワリ」

広島市中区中島町1番5号 (平和記念公園内)

交通アクセス/JR広島駅:路線バス約20分

JR広島駅:タクシー約15分

● 募集定員:600名

※応募申込みは先着順となります。



どなたでもご参加いただけます。

高校生の参加歓迎!

プログラム

- 10:00 ▶ 10:15 【開会挨拶】
山極 壽一 (京都大学総長)
- 10:15 ▶ 10:30 【歓迎挨拶】
浅原 利正 (広島大学学長)
- 10:30 ▶ 11:10 「DNA修復研究から放射線障害をみる」
小松 賢志 (京都大学放射線生物研究センター教授)
- 11:10 ▶ 11:50 「遺伝子から野生動物との共存を考える」
村山 美穂 (京都大学野生動物研究センター教授)
- 11:50 ▶ 13:00 休憩
- 13:00 ▶ 13:50 「高等教育の未来を考える」
大場 淳 (広島大学高等教育研究開発センター副センター長・准教授)
- 13:50 ▶ 14:00 休憩
- 14:00 ▶ 14:40 「新しい人間、新しい社会の創出:ピナトゥボ火山大噴火(1991)の被災民に学ぶ社会のレジリエンシー(柔軟対応力)」
清水 展 (京都大学東南アジア研究所教授)
- 14:40 ▶ 15:20 「数学の役の立ち方」
岡本 久 (京都大学数理解析研究所教授)
- 15:20 ▶ 15:30 休憩
- 15:30 ▶ 17:10 【パネルディスカッション】
「活力ある未来の“想像”と新たな展開を求めて」
コーディネーター:岸本 泰明 (京都大学エネルギー理工学研究所所長)
ゲストパネリスト:松沢 哲郎、時任 宣博
岩田 博夫、岡部 寿男
パネリスト:小松 賢志、村山 美穂
清水 展、岡本 久
- 17:10 ▶ 17:20 【閉会挨拶】
湊 長博 (京都大学研究担当理事)

活力ある未来の“想像”と
新たな展開を求めて

京都からの提言

21世紀の日本を考える(第10回)

お問い合わせ先

〒611-0011

京都府宇治市五ヶ庄 京都大学宇治地区事務部総務課総務掛

E-mail:kuic_sympo2015@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp

TEL:0774-38-3333 FAX:0774-38-3349

(当日のお問い合わせ先

広島国際会議場 国際会議ホール「ヒマワリ」 TEL.082-242-7777)

*参加者の情報は、適切に保護し、本シンポジウムの開催・受付の目的以外には利用いたしません。

*やむを得ない事情によりプログラムが変更になる場合があります。

参加お申込み方法は裏面へ
<http://www.kuic2015.jp/>



講演者紹介

「DNA修復研究から放射線障害をみる」

ヒトの生命活動の基本情報は細胞当たり2メートルにもなるDNAに収められている。この長い糸状DNA構造は情報の読み取りや子孫への伝達には好都合であるが、糸は切断される宿命的欠陥を有する。放射線は糸状DNAを簡単に切断するが、幸いにも、そのほとんどが我々の細胞にあるDNA修復機構により結び直される。講演では、この結び直しとそれに付随する現象が新たな放射線障害の原因になるDNA修復の問題点を紹介する。



小松 賢志
京都大学
放射線生物研究センター
教授

「遺伝子から野生動物との共存を考える」

野生動物の絶滅は加速しており、早急な保全対策が必要とされています。また野生動物と人の生活の場が近接することによる軋轢も生じています。よりよい共存のためには、野生動物をよく知ることが必須です。遺伝子の解析は直接観察が困難な場合の強力な手段となります。さらに外見からは不明な血縁などの情報を得ることもできます。最新のゲノム情報が保全にどのように役立てられるのか、私たちの行っている研究の一端を紹介します。



村山 美穂
京都大学
野生動物研究センター
教授

「高等教育の未来を考える」

今日、高等教育は世界的な関心事項になっている。どの国でも教育は重要課題の一つであるが、社会の発展に伴ってその重点は初等中等教育から高等教育に移行してきた。それは、政府や産業界からの高等教育への要請の拡大、あるいは世界大学ランキングの流行といった形で現れ、これまで自律した組織として存在してきた大学の在り方を大きく変えている。高等教育はどういった方向に向かうのか、歴史や国際比較などの観点から考えてみたい。



大場 淳
広島大学
高等教育研究開発センター
副センター長・准教授

「新しい人間、新しい社会の創出:ピナトゥポ火山大噴火(1991)の被災民に学ぶ社会のレジリエンシー(柔軟対応力)」

1991年のルソン島西部ピナトゥポ火山大噴火は、20世紀最大規模であった。山中で狩猟採集と移動焼畑農耕を行っていたネグリート系2万数千人のアエタは、故郷の山を追われ、再定住地での生活再建を余儀なくされた。しかし彼らは、そのための奮闘をとおし、先住民としての自覚を持つ民族として新生していった。また東麓にあったクラーク米空軍基地も深刻な被害を受け、フィリピンから全面撤退した。自然災害が、新しい人間と社会を創出する可能性に着目し、その経緯を報告する。



清水 展
京都大学
東南アジア研究所
教授

「数学の役の立ち方」

国民の税金から研究費が支払われているのであるから、国民の生活に役に立たないものには研究費は支払われるべきではない。いかに崇高な使命があっても、役に立たないものには国は関知すべきではない。これはまったく正しい議論である。では、役に立つとはどういうことか、となると、そこには各人各様の定義があるようである。定義にコンセンサスがなければ話がかみ合わない。ここでは、過去30年にわたって経験してきた数学および流体力学研究の経験に基づいて、役に立つとはどういうことかを論じたい。



岡本 久
京都大学
数理解析研究所
教授

京都大学 附置研究所・センター

- 化学研究所
- 人文科学研究所
- 再生医科学研究所
- エネルギー理工学研究所
- 生存圏研究所
- 防災研究所
- 基礎物理学研究所
- ウイルス研究所
- 経済研究所
- 数理解析研究所
- 原子炉実験所
- 霊長類研究所
- 東南アジア研究所
- iPS細胞研究所
- 放射線生物研究センター
- 生態学研究センター
- 地域研究統合情報センター
- 学術情報メディアセンター
- フィールド科学教育研究センター
- こころの未来研究センター
- 野生動物研究センター
- 物質-細胞統合システム拠点



活力ある未来の想像と
新たな展開を求めて

21世紀の日本を考える(第10回)

京都からの提言

パネルディスカッション

コーディネーター



岸本 泰明
京都大学
エネルギー理工学研究所
所長

ゲストパネリスト



松沢 哲郎
京都大学
霊長類研究所教授



時任 宣博
京都大学
化学研究所所長



岩田 博夫
京都大学
再生医科学研究所所長



岡部 寿男
京都大学
学術情報メディアセンター
センター長

お申し込み方法〈受付開始日:平成26年12月1日(月)〉

○ウェブでの申込み

- ・参加申し込みフォームからお申込ください。
- ・ホームページアドレス <http://www.kuic2015.jp/>



○FAXでの申込み

- ・冒頭に「京都大学シンポジウム参加申込」と明記し、①氏名(ふりがな)、②連絡先のFAX番号および電話番号、受付通知をメールにて希望される方はメールアドレス、③住所、④年齢をご記入のうえ、事務局FAX番号(0774-38-3349)宛にご送付ください。受付後、こちらから確認のFAXをお送りします。

○往復はがきでの申込み

- ①氏名(ふりがな)、②住所、③連絡先の電話番号、④年齢をご記入のうえ、下記あてにご送付ください。

返信はがき(表)に、送付先の住所、氏名を必ず記入してください。

〒611-0011 京都府宇治市五ヶ庄
京都大学宇治地区総務課シンポジウム担当

